

2022.6.6

2022年ミラノサローネ ダイジェスト

明日を見据えたインテリア-機能の汚染、倫理的で持続可能なアプローチ、コンテンツの純度と節度

この2年間、ほとんどの人が家の中で「停止」を余儀なくされていた中、デザイン・家具業界は逆に進化を加速させました。「住まい」は立ち止まるどころか、動き、考察し、認識、啓示し、時には眩しいほどの感情や新しい目的、異なる理由によって影響され、よりオープンに、より強く、より本質的に、そしてより「人間らしいスケール」に変容しました。

制約はむしろブランドやデザイナーの創造力を広げ、増幅させました。彼らは、屋内外、大小を問わず、私たちが自由に使える空間を、より快適で住みやすく、機能的にすることを一つの目標に掲げています。その結果、インテリアの流動性からクラシックへの回帰、純粹さと軽さの追求から自然な、または建築的なインスピレーション、クラフトの知識と技術の回復への考察まで、さまざまなデザインと美学の道を歩むことになったのです。

もちろん、素材や環境に配慮したグリーンアプローチの横断的な取り組みが行われています。そして、それぞれの分野で、多様な文化的・地理的背景を持つデザイナーが、この時代、主にヴァーチャルな方法で世界市場に進出していることがわかります。

そして、ミラノサローネは、フィジカルに人と会い製品と触れる場を再び提供します。製品が持つ物語的な価値を再確認し、雰囲気を作り出し、感情を呼び起こし、その空間に住む人々と共鳴する能力がはっきりと回復していることを見て取れます。

- フォルムは、「less is more」（少ないことが豊か）から「extrabold」（大きな）なものまで、有機的なものから彫刻的なものまで、快適性、効率性、機能性を裏切ることなく多岐にわたります。
- カラーは、ナチュラルでソフトなニュアンスの誘惑が目立ちますが、バラエティに富んでいます。
- 素材は、再生材、希少材、高機能材、再生プラスチック、新規化合物など、環境に配慮したものを使用しています。
- 仕上げは精密で希少価値があり
- 生地は包み込むような極上の触感を備えています。

●これまでにないほどの実用的なラインナップを揃える 2022 年のサローネは、実際に目で見、手で触れてもらいたいです。

家具の横断性は、今回の見本市で最も人気のあるスタイルの一つです。

Arper/アルペール (ホール 16 | C23 D18)

例えば Nipa Dooshi (ニパ・ドーシ) と Jonathan Levien (ジョナサン・レビアン) のソファ「Shaal (シャール)」は住宅にもコントラクトにも対応します。構造的であると同時に、座



る人を包み込むような触感と温かみを随所にもたらしめます。そのデザインは、テラーメイドで、柔らかく、ゆったりとしていて、軽く、どんな環境にも適応します。

Desalto/デザルト (ホール 05 | C12)

Simon Pengelly (サイモン・ペンジェリー)がデザインした新しいコレクション「Calum」を提案します。住宅、オフィス、コントラクト用で、仕上げ、素材、色の豊富さと多様性により、あらゆるタイプの空間に自然に溶け込むことができます。

Giorgetti/ ジョルジュッティ (ホール 05 | G07 H10)

流動的で横断的な生きることのビジョンを語る、Roberto Lazzeroni (ロベルト・ラッツェローニ) がデザインした新しいスクリーン「Borealis (ボレアリス)」は、リビングとスリーピングエリアの両方に設置され、そのデザインによって部屋を際立たせ、一時的に親密な空間を作り出します。

Meet Up - Fantoni / ファントーニ (Hall 20 | E23 F18)

デザインの変化とオフィス界の様々な社交のニーズを取り入れた、この時代を象徴するコレクションです。

●これらの家具は、エグゼクティブ・スペースの進化を象徴するものであり、カテゴリ化することは困難で、機能性と本質を再認識させ、より多様性を伴っています。チームミーティングに適した多目的スペースは、住宅の快適性にヒントを得て、高さ調節が可能なテーブルで多機能を実現し、環境のハイブリッド化というコンセプトを強化しています。また時には、横断性が多機能になることもあります。

例えば、**Blå Station / ブローステーション (Hall 16 | C27)** は、Johan Lindau (ヨハン・リンダウ) による「ピンポン・ミニ」を紹介합니다。サイズダウンしたソリッドなオブジェは、コーヒーテーブルや小さなベンチとして、あるいは友人を夕食に招く際にいつもサイドテーブルとして活躍します。木と真鍮でフルカスタマイズが可能です。

また、**Wittmann/ヴィットマン (Hall 05 | C09)** とデザイナーの Sebastian Herkner (セバスチャン・ヘルクナー) は、スマートで多機能であるために、家具はどうあるべきか、何を備えているべきかを問いかけています。その答えが「Marlow コレクション」です。このソファとアームチェアは、私たちの環境と無理なく融合し、相互作用することで、スマートさを実現しています。緩やかなカーブ、ソフトな布地、最高の座り心地。Marlow は居心地の良さとコミュニケーション能力、コンパクトさと多用途性を兼ね備えています。肘掛けクッションの下には、雑誌やワークシートなどを収納できるコンパートメントがあり、電源ソケットと USB コネクター2個を装備することも可能です。

Fast ファスト社 (ホール 16 | B16) の「Ria Soft (リア・ソフト)」コレクションは、ウルトラソフトクッションのソファや快適なアームチェアを展開し、住宅やコントラクト環境、室内でも、寒い季節に最適です。



Gervasoni/ジェルバゾーニ (Hall 07 | F11) は、横断性を包摂や文化的横断と同一視しているようです。アウトドア用品では、**Federica Biasi** (フェデリカ・ビアジ) がデザインしたモジュール式ソファとロッキングチェアからなるコレクション「HASHI」が、オリエンタルでエキゾチックなインスピレーションを与えています。HASHI は、その名の由来である日本の「箸」を思わせるミニマルで丈夫な構造に、スタイル、テイスト、異なる文化が融合し、二つの世界間のダイナミックな対話を実現しています。

●ポスト・コビッドの住まいでは、オーダーメイドは単なるサービスやトレンドではなく、当たり前のものでありエンドユーザーの期待するところなのです。

Porro/ ポッロ (ホール 07 | D15 D21 E14 E18) の「Boutique Mast (ブティック・マスト)」は、ピエロ・リッソーニが同社の研究開発センターと共同で設計し、無限のカスタマイズの可能性と純粋さ、透明性を兼ね備えています。ガラス面に縁取られたウォークイン・ワードローブ、Boutique Mast (ブティック・マスト) は、同じくリッソーニのキューヴェ構造、クリスタル棚、ホワイトチェリー材のベースと引き出しの収納ユニット、「Acquario (アクアリオ)」を縁取るグラフィックなケージを形成し、周囲の空間に軽い印象を残しています。

●「*Less is more* (より少ないことは、より豊か)」は、さまざまな方法で、多くのブランドによって語られ、解釈されています。

Lema/レマ (ホール07 | B15 B21 C20 C24) では、再びピエロ・リッソーニが軽さと多様性を融合させ、椅子のコレクション、「Ombra (オンブラ)」をツールで拡張しました。高さは2種類あり、工業製品としての強い個性とミニマルなデザイン、そしてコントラストを意識したデザインでありながら、住宅に設置しやすいことが特徴です。

Living Divani (リビング・ディヴァーニ) (Pav. | 07 | C11 D16) は、Shibuleru (シブレル) スタジオによる「Aero (アエロ)」ファミリーを拡大し、ホームオフィスに最適な新しい「Aero D」デスクを発表しました。平行な平面が構造体と対話し、さまざまな用途やカスタマイズの可能性を示唆する配置になっています。

Kristalia/ クリスタリア (ホール20 | A05 B06) では、Sam Hecht & Kim Colin (サム・ヘクト&キム・コリン) が「Bodoni (ボドニー)」というテーブルをデザインしました。太い垂直線と細い水平線のコントラストから、現代のタイポグラフィにインスピレーションを受けたものです。この建築は、4本の丈夫な脚が、柱のように、固定または拡張可能な軽い表面を支えているという構成が本質的です。

LAGO/ラーゴ (Hall 16 | C19 D14) では、Davide Lago (ダヴィデ・ラーゴ) がデザインした「36e8 Glass kitchen」がより建築的で彫刻的であり、ブランドのキッチンの顔を一新し、再構築してガラスの透明性と深い視覚的反射のためのスペースを残しました。天板、扉、ハンドルが一体となり、吊り下げられた一枚板は、素材を減らすことでガラス収納部が、N.O.W. パントリーと完璧に調和しています。



●一方、落ち着いたクラシックなデザインには、柔らかくしなやかにつながるディテールがあり、手を滑らせるような心地よさを感じます。

例えば、**Flexform/フレックスフォルム (Hall 05 | E05 E11 F02 F08)** は、Antonio Citterio がデザインした「**Eliseo (エリゼオ)**」コレクションのフォーマルでエレガンス、均整のとれた感覚、細部へのこだわり、落ち着いた雰囲気が特徴的です。包み込むようなラインと柔らかな張地は、高い快適性を提供し、上質なクラフトマンシップを感じさせます。

Frag/フラッグ (ホール 16 | D19) の、**Oscar & Gabriele Buratti (オスカー&ガブリエレ・ブラッティ)** によるチェア「**Blyn (ブリン)**」シリーズは、古典的なフォルムからインスピレーションを得て、ドライで本質的なラインを表現しています。Blyn の特徴は、ゆったりとしたサイズの凸型背もたれです。

Salda Arredamenti/サルダ・アレダメンティ (ホール 04 | D09 D11) の「**Bergere (ベルジェーレ)**」は、時間と永遠の空間に置き去りにされたようなサクラ材の布張りのアームチェアで、シートクッションと固定式のサイド&バックが特徴です。

Gebrüder Thonet Vienna/ゲブルダー・トーネット・ヴィエンナ (Hall 20 | D02) の新しいプロジェクトは、伝統と現代的な創造性の間を行き来しています。その一例が、プフ、「**Arcadia (アルカディア)**」をデザインした **Serena Confalonieri (セレーナ・コンファロニエリ)** との異色のコラボレーションです。丸みを帯びた形と動きのバランスが、視覚的に軽く、遊び心にあふれたラウンドプーフを定義しています。

Cattelan/カッテラン (ホール 10 | A15 B18) の新しいコレクションは、幾何学的な要素を加えたソフトで官能的な形状のミックスの中で、古典的な理想を再発見します。余分なものがないため、**Tosca Design (トスカデザイン)** スタジオがデザインしたサイドボード「**Costes (コステス)**」のように、自然素材と手仕上げの役割を探る空間となり、ドライでクリーンな美しさを再現しています。

Turri/トゥーリ (ホール 01 | A07 B06) は、クラシカルなインスピレーションと **Monica Armani (モニカ・アルマーニ)** らしい幾何学的な実験を組み合わせ、ブランドの新しいダイニングエリアを開発し、ベッドルームについても考え始めています。いずれも余分なものを排除し、純粋な内容を追求する彼女のコンテンポラリーデザインのコンセプトが表現されています。

ETRO Home Interiors/エトロ・ホーム・インテリアズ (ホール 04 | B12) のクラシックは、異国情緒と現代の魅力、1950年代風のデザインと伝統への洗練された言及が調和したものです。「**Mekong (メコン)**」は、ゆったりと座り心地の良いソファで、リラックスできる和やかな時間へと誘います。セージグリーンのベルベットは、19世紀末のパティスリーやパリのカフェを彷彿とさせるラグジュアリーなソファです。



●様々な家具、特にインテリア小物は、母なる自然をインスピレーションの源とする有機的な方向へと向かっています。

Bosa/ボーズ (Pad.16 | B31) では、緑と植物でデザインされた自然の景観の中で、カラフルな動物たちが、同社が 2020 年に開始した絶滅危惧種に捧げるプロジェクトの様子を物語っています。**Alessandra Baldereschi** (アレッサンドラ・バルデレスキ) がデザインしたウミガメの **Margot**(マーゴット) は、このファミリーの新しい仲間、甲羅に乗って移動することにより、その生息環境全体を物語っています。私たちを取り巻く環境がいかに脆弱であるか、そして私たち全員がその保全に尽力する必要があることを気づかせてくれます。

Carpet Edition/ カーペット・エディション (ホール 06 | E33) は、現代アートやカルチャーとオープンに対話する実験的な作品を手がけるデザインエディター、**PLACéE** (プラセ) のコレクション「The Floor Is Lava」を発表。火山のパワーから新しいカーペットにインスピレーションが与えられ、マグマと火山礫の噴出後の表面の反応と変化を、ポップで二色性のあるキーで解釈した、型にはまらない形状の 6 つのモデルを展開しています。

●コンテンポラリーデザインの「物語の原動力」の多くは、クラフトの技術や知識の再発見であり、クラフトマンシップとインダストリーをミックスしたいという願望です。そして今日評価されているのは、素材の良さ、細部へのこだわり、職人の知性です。

その一例が、**Ritzwell/リッツウェル (ホール 05 | D10)** の「MO コレクション」の新作ベンチ 2 脚です。宮本晋作のデザインで、木製のフレームとシートが上質な革の織り目で一体化しています。往年の「ものづくり」の原点が、本質的なラインと融合し、シートとしてもテーブルトップとしても使えるコンテンポラリーな作品に仕上がっています。

Bolzan Letti/ボルツァノ・レッティ (ホール 10 | C06) の「**Gabri** (ガブリ)」は、**Matteo Zorzenoni** (マッテオ・ゾルツェノーニ) がオーダーメイドのスーツのようにデザインしたニューモデルです。素材と仕上げはクラシックに、ラインはコンテンポラリーに、**Gabri** はヴェネトの職人技と、その歴史における椅子張りの重要性を高める家具である。

Ethim/エティモ (ホール 10 | D20) とパオラ・ナヴォーネによる新しいカーペットコレクション「**Nodi** (ノーディ)」は、手織りの伝統に対する魅惑から生まれました。ソフトでコクのあるカーペットは、色調の異なるマクロ糸で作られています。木目織りは、横糸に幾何学模様や抽象的な模様を描きます。詩的で繊細に体験できるアウトドア効果は、地中海の魂に属する生活感覚を物語っています。特殊な加工を施した太い糸を使い、手作業で丁寧に織られたネット、クロスステッチ、カモフラージュは、地中海色漂う上品で異なるニュアンスを持ち、落ち着いたエレガントな組み合わせです。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it